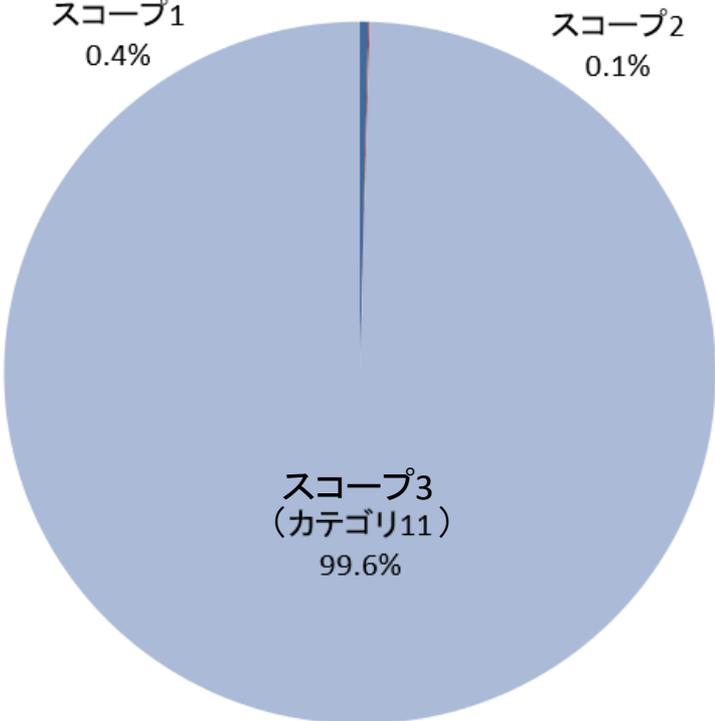


深田電機株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：卸売業● 事業概要：電設資材の専門商社として電気工事店を始めとする施工店への電気設備資材販売● 事業規模：拠点数6 従業員数92名
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <ul style="list-style-type: none">● 目標 2030年に2018年比で50.4%削減● 既に、全事業所のLED化、空調設備の効率化等に取り組んでいる。● 今後、太陽光発電設備の設置による再エネ量の拡大や、SCOPE 1の大半を占める営業車や輸送車両、場内車輛等についての、EV化を目指し、順次化石燃料の削減に取り組む。● なお、2020年度に稼働する予定の新小牧営業所については、太陽光発電で充電できるEVスタンドの設置と電気自動車の導入を先行して実施することを検討している。

深田電機株式会社

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2・3の排出量の状況  <p>A pie chart illustrating the distribution of greenhouse gas (GHG) emissions across three scopes. The chart is divided into three segments: a very small blue segment for Scope 1 (0.4%), a slightly larger blue segment for Scope 2 (0.1%), and a dominant light blue segment for Scope 3 (99.6%). The Scope 3 segment is labeled with '(Category 11)'.</p> <table border="1"><thead><tr><th>Scope</th><th>Percentage</th></tr></thead><tbody><tr><td>Scope 1</td><td>0.4%</td></tr><tr><td>Scope 2</td><td>0.1%</td></tr><tr><td>Scope 3 (Category 11)</td><td>99.6%</td></tr></tbody></table>	Scope	Percentage	Scope 1	0.4%	Scope 2	0.1%	Scope 3 (Category 11)	99.6%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : 422.0 [tCO₂]
		Scope	Percentage							
		Scope 1	0.4%							
Scope 2	0.1%									
Scope 3 (Category 11)	99.6%									
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : 80.0[tCO₂]										
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3 : 112,896[tCO₂] <p>目標の対象セクター : カテゴリ11</p>										

深田電機株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 当社のエンドユーザーのいくつかは既にS B T水準の目標をコミットメントしており、自社もS B T水準の目標設定に取り組まないことは、リスクになり得ると考えている。● 当社の主要事業は、主にZ E B達成や省エネ性能改善のために使用される高効率型空調設備やL E Dなどの照明設備など電気設備類の販売になる。気候変動に対する環境意識が高まることにより、事業機会は増えると考えている。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● S B T水準の目標設定を行うことにより、顧客や地元金融機関等からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大したいと考えている。

深田電機株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 環境ソリューション企業として自社建築物の省エネ性能について改善の取組みを進めてきたが、具体的な目標値は設定していなかったため、今回の「中小企業向けSBT・再エネ100%目標設定支援」の存在を知り、役員会でコンセンサスを得た上で応募を決定。今後の事業活動において改善事項を把握し目標設定を行う必要性を社内で共有した。● 目標の実現可能性を精査するなかで、特に配送業務におけるCO2排出が課題であることが確認され、コスト面で非常に負担があるとの意見も出たが、2030年時点での技術革新を想定し、不可能ではないことを説明し、理解を得た。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1 の削減において、車両のEV化及び再エネでの充電インフラが必要である。コスト面も含めて検討していくことが必要。● SCOPE2については、電力会社からの再エネメニューの調達或いは、J-クレジットなどによる削減を検討する。